

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271600502		
法人名	株式会社レオパレス21		
事業所名	あずみ苑並木町		
所在地	千葉県成田市並木町25-108		
自己評価作成日	平成23年1月19日	評価結果市町村受理日	平成 23年3月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成23年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地に立地し、周囲は自然に溶け込んでいます。私共のコンセプトである「いつも笑顔」をモットーに、ご入居者様の穏やかで安心した生活を営む事が出来るように、適正な介護をご提供しております。常にご利用者様の立場に適したサービスのご提供を行い、関係市町村、地域の保健、医療、福祉サービス事業者との連携を図り、総合的なサービスの提供に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

成田市郊外の閑静な住宅街の中にある、2階建て2ユニットのホームである。ユニットの入り口は1階用、2階用夫々2か所ある。中は家庭的な雰囲気があり、居間は広く明るく開放感に満ちている。先ず第一印象として感じたのは、入居者がみんな穏やかで安心した表情である。理念としている、入居者の自立支援・利用者本位・地域との連携と貢献、に加えて、施設独自に掲げている「並木町のコンセプト いつも笑顔で」の実践が自然体で行われていることが窺える。更に開設5周年を迎え、近隣住民との交流も漸く盛んになってきており、地域との連携が着実に進んでいる。運営推進会議を定期的に行ない、サービスの質の向上に繋げている点を評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて必ず、職員一同復唱し、運営理念の周知に努めております。	理念は玄関入口に掲示され、利用者の自立支援・利用者本位の運営・地域との連携と地域への貢献、の3つの理念を掲げ、これを毎朝礼時に職員全員が復唱し共有を図っており、理念の実現に向けた介護を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流として、夏祭りを行い、地域の方にも起こしいただいたりボランティアさんのご協力を得、継続しております。	定期的な行事を行なう時には必ず地域の人の参加を呼び掛けたり、ボランティアの協力も受けている。また昨年11月に事業所開設5周年記念行事にも参加いただいている。近所の子供達が遊びにきたり、近隣から野菜のお裾わけや和菓子店から水羊羹の差し入れも受けていて、地域との交流は積極的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通じて、ご利用者様と地域の方々との交流を図り、認知症に対してのご理解や支援を頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市役所、地域の地区長、民生委員、そしてご入居者御家族様にご参加頂き、苑での問題点、行事の反省会等、行っております。	2か月に1回の運営推進会議は継続して実施している。市の介護保険課職員・地域の地区長・民生委員・入居者家族の参加で、毎回テーマを設け施設内の問題点・感染症対策・避難訓練等について活発に話しあい、意見提案も貰って運営に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での意見交換等、情報の共有に努めております。	市の介護保険課職員と常に連携をとっており、また地域包括支援センターとも連絡をとりあっている。施設側から積極的にケアサービスの取り組み等の情報を提供し、共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束委員会」を立ち上げており、常に職員の意識統一を図っております。	日頃から身体拘束ゼロのケアを目指している。最近新たに「身体拘束委員会」を立ち上げ、施設内研修を通じて身体拘束をしないケアに実践をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修で学んだことを内部研修に盛り込み行っており、努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで、その様な事例も無く各自資料に目を通す程度である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時、ご家族様にご納得される様に説明させて頂き、ご納得の上ご契約を結んでおります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に於いてのご家族様のご意見、ご要望、又は、施設に設置しています「意見箱」にご意見、ご要望をご記入いただいております。	利用者家族等からの意見が運営に活かされていることは今回のアンケート結果から窺える。ただ、アンケート自由記入の改善して欲しい点、気になる点から今回改めて気付きもあったので今後の改善に努めてほしい。	施設内に利用者・家族等からの要望や声を受ける「意見箱」を設置しているが、保湿機の設置要望程度の意見だけで、本音の意見が出ていない実情である。家族会の立ち上げを支援する等で、本音の意見・要望が出て、これが運営に活かされるよう、工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1月に1回行われる「全体会議」各フロアーにて行われるユニット会議にて職員とのコミュニケーションをとりながら意見交換を行っております。	管理者は上から目線で見ることなく、「全体会議」や「ユニット会議」の場で在籍年数や年齢を問わず意見交換が活発に行われるよう配慮し、職員の意見がサービス運営に反映されるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コンセプトの「いつも笑顔」は職員にも笑顔で仕事を行い、職員同士、何事も気軽に話が出来るとような環境作りに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会を行い、そこで職員の向上心を高めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	成田市内のグループホームの管理者が、定期的に集まり連絡会を通して、外部との交流を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員より、ご入居者様に声掛けを行ったり、チョットした変化気付き、良好な関係作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との連絡を取りながら、ご家族様の困っていらっしゃる事、不安な事を伺い解決できるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様、御家族様のご様子を感じ取り、様々なサービスや、望んでいらっしゃるサービスをご提供出来るように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様同志が、共に生活している家族のように、お互い安心した生活を過ごせるように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に御来苑出来るような環境作りを行っており、ご入居者様も他のご家族様であっても、共に楽しく話が出来る様な、苑になっております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様同様、ご友人であってもご自由にご来苑でき、日々のご入居者様のご様子を感じ取って頂ければと思っております。	友人や、入居前に世話をしあげた人の訪問があり、夜間の訪問以外はいつでも受け入れている。馴染みの人との関係継続はややもすると途切れがちになってきており、寧ろ当施設の職員と入居者同士が馴染みの人々であり、ここでの良好な関係作りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に生活する場である為、ご利用者様が共に協力出来る様な支援を行える様、努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が、終了しても今まで築いてきた経過があるので、そうだと、支援に努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に皆様の声に耳を傾け、本人の思いを少しでも意に添えるよう努めております。	思いや意向を把握するため利用者の声を良く聞く、聞き取りが困難な利用者には手の動きや表情から意向を汲み取って意に沿える支援の努力をしている。入居者の穏やかで安心した表情から、普段から利用者をよく観察することで対応していることが窺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の望む生活に少しでも近づけるように、努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理はせず、ご利用者様の出来る事を行なって頂くように、職員がご利用者様の現状把握に務めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ご利用者様の現在の状況等について「モニタリング」を行い、ご利用者様の現状把握に努めております。	利用者や家族の生の声を聞き取り、まず連絡帳に書いてそこからニーズを見出す方法でケアカンファレンスをしている。それをもとに計画作成担当者・職員が一緒になって計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき等、職員間で情報の共有し、対応、実践、見直しを行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月1回のモニタリングを通して、ニーズに対応出来るサービスに取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	並木町公園、近くのスーパーに共に出かけ、暮らしを楽しむ事が出来るように努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の連携医内科(月2回往診)により、診察を受けております。歯科に関しては、週1回の訪問を受けております	本人や家族等の希望で今迄のかかりつけ医での受診時は、基本的に家族が付き添い同行としているが、家族で対応できない時は職員が対応している。提携医に変更の利用者は「情報提供表」にて以前の医師から医療情報を引き継いでいる。受診結果は連絡ノートに記入確認、申し送り時に押印、情報の共有ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携の内科医師と共に見える看護師より、何かあればすぐに連絡して下さいとの連絡先を伺っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院、ご家族様とご相談の上、適切な病院へご入院できるように提携医とご相談し支援しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医より、助言をもとに今後の苑としてのケア又は、他病院へのご紹介等できる様、支援しております。	医療行為を伴う終末期利用者には、医師の判断を参考に家族と相談の上対応しており、入院が必要な時は他病院への紹介等の支援をしている。今迄重症化した場合は殆ど入院となっており、その時職員は見舞いに行き、早期の退院を待ちわびている。当施設の現態勢上最期の看取りは難しいが出来るだけ長くケアしたいという職員の気持ちはある。	過去に看取りの経験が一例あり、いつ突然の事態が起きても困らないよう、日頃から重症化や看取りに関して関係者全員で最大の支援ができる体制作りを話し合い、研修や勉強会が望まれる。勿論家族の協力や医療バックアップ体制を検討し当施設の限界も明確にすることも大切と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に急変時マニュアルに沿った対応を行っております。また、年に2回、救命講習を受講しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の災害訓練を消防署立会いにて行っております。	スプリンクラーを昨年設置し、火災報知機・消火器・消防通報専用電話機等設備は整っている。年3回の消防署立ち会いによる災害訓練も、1、2回は夜間想定に特化してどれだけ事が実際に出来るかの確認と習得に努めている。施設長から、災害時(特に地震)に備えて飲料水・食料などの備蓄を確保するという確認が得られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の思いには、常に耳を傾け、誇りやプライバシーを損ねない対応を行っております。	接遇マニュアルの利用と徹底を、毎日の支援のなかで気付いた時に指導する体制がきちんと出来ている。利用者への呼び方も「さん」に統一され、人格尊重の教育訓練がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、ご利用者様の思いや、希望を表して頂ける様に言葉かけには配慮しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはありますが、ご利用者さまに伺った上で、何事も進めさせて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容利用の際には、(カット、カラー、パーマ)とご利用者様のご希望を伺った上で、依頼をしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に4回ほど、栄養士さんの訪問により、ご入居者様に食べたい食事等聞かれたり、日々無理の無いようにおできになる事をお手伝いして頂いております。(食器拭き、野菜の皮むき、配膳等)	毎月の献立予定表で、好き・嫌いの確認ができています。契約業者から毎日届く食材の調理手伝いやランチマット並べ・配膳・後片付け・食器拭きは利用者が積極的に参加している。職員と一緒に食事は、全員が自立で食するよう、見守り支援としている。美味しい声が自然と聞こえ、楽しい食事時間が実感できる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の状態に合った、食事提供を行っております。食事、水分摂取量は、チェック表に記入し、1日の摂取量、水分量を把握しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っております。週1回の訪問歯科による往診にて、治療を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起床後、食事の前後、就寝前と排泄の声掛けを行っております。それ以外、排泄チェック表にて、排泄間隔をチェックし声掛けを行っております。	「日常生活排泄チェック表」に利用者毎に回数・量・水分補給量等記載しており、トイレへの声掛けは起床後・食事の前後・就寝前に行ない、夫々排泄パターンを把握して対応している。夜間、足の不自由は利用者にはポータブルトイレを置いて対応を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲まれる方、身体運動を行っておりますが、薬に頼らなければならない方もいらっしゃいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るように準備し、ご利用者様に意思確認、バイタルチェックにてご入浴して頂いております。	浴室・浴槽ともに広めで、滑り止め床・浴槽内滑り止めマット・腰かけ椅子が設置されていて、ゆったりと寛いだ入浴が楽しめる空間である。毎日入浴したい利用者には早めの入浴で対応し、入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、焦らず洗髪誘導等の声掛けの工夫で入浴に誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間時、安眠出来る様に日中は、体操、レク活動にて楽しく過ごして頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食前、食後とご入居者様に「服薬管理表」を職員が周知し、服薬支援を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様に無理のないように、出来る事を行って頂き、自分も必要とされているのだと思っ頂ける様に支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調、お天気により近くの公園に散歩に行ったり、玄関先での外気浴を心掛けております。	利用者が自発的に朝、外回りの草取り・掃き掃除を習慣にしており、近隣の散歩者や犬を連れてのウォーキングの人達との顔見知り関係ができています。常時家族の施設訪問の予定連絡があり、一緒に外出の機会も多い。近くのコンビニまでの買い物支援もできており、一人ひとりへの希望も叶えている。時にグループドライブも実施して気分転換への配慮もみえる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はほとんどの方が行なっておりません。職員と一緒に買い物に行かれ、支払は職員が行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用様が、御家族とお話がしたいとの申し出があった時は、ご自宅におかけし御家族様とお話されます。また、年賀状、暑中見舞い等行って頂ける様、支援いたします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	総ての壁にご入居様が書かれた四季折々の塗り絵等飾って頂いたり、リビングには、植木鉢も置かれ常に水やりを行ってくださる。常に温度管理を行い、ご入居様が快適に過ごして頂ける様に行っております。	広く、日光が降り注ぐ快適な共有空間には、利用者作成の塗り絵・書画が壁面に飾られていて和やかで静かな雰囲気である。花・植木が至る所に配置され、水遣りや手入れは利用者が積極的に行っている。時計も大きく、カレンダーも大きめで、毎日赤マジックで消し込みをしていて、利用者が時間・日の確認ができる支援が見てとれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居様は、常にリビングにてお過ごしされる事が多く、定位置が決まっており談笑されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ、ご入居様の居室には、今まで使い慣れた家具等置かれ、御自分で塗られた絵を飾ったりとされています。	各居室の入り口にはネームプレートと共に利用者個々の写真も下げてある。居室内にはクゼット・エアコンが設置され使い易く快適な空間が実感できる。利用者それぞれが使い慣れたベッドや思い出の写真・仏壇・趣味の大正琴が持ち込まれ、居心地良く馴染みの生活が継続できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は総てバリアフリーになっており、廊下、トイレには手摺りを設置しております。床は、Pタイルになっており車椅子の方もスムーズに動かれ、少しでも自立した生活を送れる様、工夫しております。		